

言葉の遅れを主訴とする幼児と母親への心理面接の過程

——アセスメントとしての初期描画への着目から——

末 次 絵 里 子*

Process of Psychological Interview for an Infant with Delayed Language Development and Her Mother: Assessment Based on Early-phase Drawings Made by the Infant

Eriko SUETSUGU

Key words : 初期描画 Early-phase drawing, 関係性 relationship, アセスメント assessment

I 問題と目的

子どもの心理アセスメントとは、「何らかの臨床心理学的援助が必要とされる可能性のある対象（クライアント）に対して、必要と考えられる情報を臨床心理学的方法によって収集し、臨床心理学的側面から見立て、援助の方針を決定すること」という臨床心理アセスメントの定義に包含される、「人を理解し、人の行動や発達を予測し、その発達を支援する方法を決定するために行われる測定・評価」を定義とする、発達アセスメントを核とするものであると考えられる。そして、この発達アセスメントには、「理解するためのアセスメント」と「支援するためのアセスメント」の2側面があるが、実際にはこの2側面は重なり合っており「理解と支援のためのアセスメント」と整理できると思われる。また、アセスメントの目的は、本郷（2008）が「発達支援のニーズを把握」、「支援目標、方法を決定」、「発達を確認」、「支援の妥当性を確認」と整理したが、松本（2010）も、「子どもは成長・発達する存在である」とその特徴を述べたように、子どもの発達の経過を辿ること、そして経過を辿りつつ、その都度の状態を見極めていきながら支援を構築し直していくことが心理アセスメントには重要なポイントであることがわかる。もう一つの重要なポイントは、本郷（2008）、松本（2010）も指摘している、子どもが取り巻く環境の中で生きているという点、これは、子どもの関係性の発達を見ていく視点ともいえよう。

実践の現場では、様々なアセスメントのツールを複合的に用いながら、本郷（2008）が示す、「発達支援のニーズを把握」、「支援目標、方法を決定」、「発達を確認」、

「支援の妥当性を確認」などのことが実施され、そこには関係性を見ていく視点もそれぞれの臨床家のセンスに頼る形で織り込まれていることが多いのではないだろうか。

子どものアセスメントを、「理解と支援のためのアセスメント」として行う上で、有効となるのが人物画であると考えられる。山形（2000）は初期描画出に、対人場面における表現意図を重視した。つまり、初期発達における他者とのコミュニケーションへの着目である。小林（2010）も、情動が中心的役割を占める情動水準のコミュニケーションが繰り返される中で、やがて話し言葉や身振りなどの媒介を介したコミュニケーションの成立に進むとし、他者との関係が表現意欲につながることに目を向けている。これらの理論によって描出をとらえることで、「子どもは取り巻く環境の中で生きている」という点を重視したアセスメントを可能にする。また、鬼丸（1981）は、なぐり描きから、円形へ、円形から直線の出る段階、それがやがて頭足類へとつながるとして、初期の描出の過程は、人物画につながる過程であるとした。その人物画の描出過程を見ていくことは、松本（2010）の示した、「子どもは成長・発達する存在である」という点を重視したアセスメントを可能にするのではないだろうか。

「なぐり描き」については、ひとくくりにするのではなく、「なぐり描き」そのものの内容を見ていくことが重要であることを筆者（2021）はすでに明らかにしている。「偶然的なぐり描き」、「意図的なぐり描き」、「意味付けのなぐり描き」というなぐり描きの変化の過程を表1に整理する。また、そのなぐり描きの段階が、先述したコミュニケーションの発達の過程、つまり情動水準のコミュニケーションから象徴水準のコミュニケーションに

* 広島文化学園短期大学保育学科

表1 【なぐり描き】の変化

「偶然的なぐり描き」	手にしていたペンの跡が偶然紙の上に表れたもの。
「意図的なぐり描き」	手を動かすことで、紙にその線の痕跡が残ることを認識できるようになる。何度確かめるように、意図を持って描出する。
「意味付け的なぐり描き」	いろいろな話をしながらの描出。意味を持って描出。注釈がつく。

* リュケ、ケログ、ローエンフェルド、鬼丸、山形らの描画発達の過程についての理論より、整理したもの

表2 なぐり描きの発達とコミュニケーションの発達

なぐり描きの発達	偶然的なぐり描き	→	意図的なぐり描き	→	意味付け的なぐり描き
コミュニケーション媒体	文脈依存的(無媒介的)			→	普遍的(話し言葉, 身振りなど)
コミュニケーション水準	情動水準			→	象徴水準(三項関係の成立)
社会性の広がり	特定二者			→	不特定多数

* 「偶然的なぐり描き」に始まり、「意図的なぐり描き」を経て、「意味付け的なぐり描き」が表出されるに至る変化と、それらの変化を規定するコミュニケーション媒体、コミュニケーション水準、社会性の広がり

発展していく過程と連動しているということを、表2に整理して示す。

筆者(2021)は、初期の描出には、子ども一人ひとりの内側からの形成のはたらきの違いが表れるからこそ、早期の発達のアセスメント的な視点での活用が意義深いものとなることを提示した。そして、「なぐり描きの変化の過程」を明らかにすることにより、子ども理解につなげると共に、なぐり描きの過程そのものが、子どもの内側からの形成のはたらきに忠実に、能動的な行為として練り広げられていくよう、支援システムを構築していくことが重要だとした。

そこで、今回、言葉の遅れを主訴とする幼児と母親との心理面接の過程において、「子どもは取り巻く環境の中で生きている」という点を重視したアセスメントの必要性から、なぐり描きから人物画に至る描出の変化の過程を、母子の関係性への介入の指標として活用した事例を取り上げた。「言葉」という一つの部分にのみ着目してしまいがちな母親に、子どもの発達を全体的に見ていく視点、そして変化の過程にこそ着目していく視点を伝え、その過程に寄り添う援助的にかかわりの在り方を検討する。

II 事例概要

1. 事例

筆者(以下、Thとする)が不定期の面接で断続的に支

援した、言葉の遅れを主訴とする女兒(A子)とその母親の事例。

2. 面接に至る経緯

A子は1歳6ヵ月健診時に言語の遅れを指摘され、保健センターでしばらく経過観察が行われた後、保健師より専門医のいるB病院に紹介された。そこで主治医からB病院に勤務していたThに心理検査の依頼があった。

3. 面接の形態(治療構造)と流れ

Thは心理職として、初回の面接で心理アセスメントを実施し、状態像を把握し主治医に報告をした。その報告の内容を受けて主治医から心理面接の継続の指示があり、不定期の形で心理面接を継続した。A子が2歳6ヵ月時より面接を開始した。一回につき約90分で、前半はA子とThの二者面接、後半は、A子、母親、Thの三者での面接の形で行った。

面接は初回のアセスメント(新版K式発達検査を実施)のための面接を含めて全20回、A子3歳2ヵ月時まで、約半年間実施した。面接の中では、その都度の描画によるアセスメントを意図し、人物画表現を促す上で、画材として八つ切り画用紙、白用紙、サインペン、クレヨン、鉛筆等を準備しており、A子の目に入り手に取りやすいように提示して「お絵描きしようか。」と教示して実施した。

4. 家族構成

会社員の父親、専業主婦の母親、三歳上の兄、A子(2歳6ヵ月、初回面接時)

5. 倫理的配慮

倫理的な観点から、終結後相当年数が経ち、小児を対象とする医療機関の対象ではなくなっている事例を取り上げると共に、個人が特定されないよう、アルファベット表記を用いた。また、時期や場所が特定できる記述を省いた。

III 心理面接の過程

治療過程の分析として、社会的人間関係の形成の過程に着目して1期から7期に区分して整理した。また、7期それぞれの時期における行動や発達上の特徴は、「A子の状態像の特徴と変化《描画》《発語》《行動・様子等》」、「母親の様子と変化」、「母親への、子どもとのかかわりについてのThの助言のポイント」に分けて整理した。描画においては、グッドイナフ人物画知能検査(DAM)の評価が可能な段階からは、評価をアセスメントの一環として行い、できるだけ多角的にA子の描出をとらえることができるように努めた。7期のそれぞれの時期における分析項目の説明は、表3の通りである。Thは、治療的

表3 【治療過程の分析】

A子の状態像の特徴と変化	描画	描画の特徴と変化・DAM検査結果
	発語	『発声・構音・聴覚機構の発達』にかかわる特徴と、言葉の理解や話し言葉
	行動・様子等	症状の変化の特徴と、面接場面での具体的な行動・様子
母親の様子と変化	描画を活用したThのかかわりによって、母親の様子がどう変化していくか	
母親への、子どもとのかかわりについてのThの助言のポイント	描画を活用した母子への時期ごとのThのかかわりのポイント	

かかわりとして、母子の情緒的な触れ合いを重視し、母子をつなぎ、関係性の発展を支えた。1期の描画では、円錯画の中に交差も見られ、形あるものが表現される時期も近いと思われた。2期の描画では、円錯画の中に、閉じる丸が描出され、3期からは円形からの線の放射、そして人物と分かる描出も表れるようになった。こうした非言語的表現の前進の意味を丁寧に母親に伝え、共有しながら母親の不安に寄り添う支援を4期、5期、6期と重ね、7期に至った。7期では2語文、3語文と一気に言語表出面でも伸びが見られ、より生き生きとした人物描出も表れ始めた。治療過程の分析の全体を、表4に提示する。

Ⅳ 考 察

1. 「円形から線の出る表現」について

子どもの初期発達における描画表現について、鬼丸(1981)は、一見顔に似た円形が子どもにとって「存在するもの」の原初的表現であることを示した。そして、円形のみをもって人を表している段階が最初にあるが、ここからすぐに頭足類へとつながるのではないとし、この次には円形から直線の出る段階があること、直線は1、2本のこともあれば数本のこともある、一方の側からだけ出ることもあれば放射線状に出ることもある。八方に出るものはとかく「太陽」を描いたものと見なされがちであるが、必ずしも太陽を描いているのではないとする。中央の円形から外部に向かう放射線は、視覚に忠実な対象表現ではない、目には見えないが心に感じ取られた、放射という「はたらき」を図示したもので、作用という非視覚的現象を視覚化したものである、とする。例として、図1に、円形から線の出る表現が、明確に見られる幼児の描画を示す。

円形、つまり閉じる丸の表現は、存在するものとして、「自己・他者の発見(意識すること)」を象徴し、円形から線の出る表現は、「自分から、外へ向けてのはたらきかけ」を象徴するものとなる。これらの表現を促すものは、他者との直接的な心身の触れ合い、密度の濃い触れ合いであり、スキンシップである。これを図示したものが図2である。

今回取り上げたA子のケースにおいては、特にこの「円形から線の出る表現」、「A子からののはたらきかけ」の

力が重要な鍵となった。

2. 治療過程の分析について

表5に、治療過程の分析①として、A子の描画を含めた状態像の変化の過程を示した。A子は第1期における描画1、描画2、そして第2期の描画3、描画4、描画5から、強い表現欲求を持っていることが感じられた。表現したい思いが多くあるにもかかわらず、言葉にして表出できず苦しんでいた。その時期を、「自己表出の模索期」から、「表現欲求の高まり期」とした。第3期の描画6、描画7、描画8で、表現欲求の高まりからの微妙な混乱が少し落ち着きを見せ始め、円形の中に目、鼻、口などが小さい表現ながらも表れた。外側に向かっても、線の出現の兆しも見られ、この時期を「はたらきかけの萌芽期」とした。第4期の描画9、描画10、描画11、描画12、描画13では、スムーズではなくても、A子なりに外に向けて様々な思いを発出していく方向にエネルギーが向けられたように思われる。そこで、この時期を「はたらきかけの充実期」とした。第5期の描画14、描画15、描画16、描画17では、円形から表出される線が「目に見えない、はたらきかけの力」というイメージから、視覚の影響が強くなり、「髪の毛」という印象の強いものに変化した。A子の様子も安定感の感じられるものとなってきた。そのような変化と合わせて、母親との分離不安の出現が見られ、この時期を「分離不安出現期」とした。第6期の描画18、描画19、描画20、描画21では、「頭足類」描出がなされると共に、言語表現も豊かになって、身振り手振りと言葉を合わせて、コミュニケーション能力が高まりを見せるようになった。そこでこの時期を「象徴機能の高まり期」とした。第7期の描画22、描画23では、第6期にも表れていた「頭足類」描出も、より自信に満ちた堂々とした表現となった。象徴水準でのコミュニケーションが安定してきた時期でもあり、「社会的人間関係の成立期」とした。





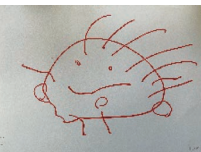
表6には、治療過程の分析②として、A子と母親の様子と変化の過程(関係性への着目)を示した。A子が高まってくる自己の思いを表出できず、模索していた時期は、「関係性の構築期」であり、母親は「A子の発達の遅れに対する不安・否定的な感情、受け入れられない気持ち」を抑えられない状況であった。次の段階では、A子

表4 【面接の経過】

期	年齢	A子の状態像の特徴と変化			母親の様子と変化	母親への、子どもとのかわりについてのThの助言のポイント
		《描画》	《発語》	《行動・様子等》		
第1期	2歳6ヵ月	 <p>描画1 線描出のコントロールが可能になってきている。</p>  <p>描画2 円錯画の中に交差が見られる。複雑な描出が生まれる兆し。</p>	<p>「アッ、アッ」「ン、ア」等の喃語中心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指示には従うことができる（2歳児レベル）。 ・ややマイペースで気分が移ろいやすい。その都度丁寧に語り掛け促さなければ落ち着いて取り組むことは難しい。 ・困ったことや要求は「アッ、アッ」と言いながら動作で相手の目を見ながら示す。日常目にする身近な物の絵カードを提示すると、自分でその絵を指さし、「ン、ア」と口を動かしいっしょうけんめい何かを言おうとする様子を見せる（絵カードそれぞれによって口の動かし方も違っている）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が強い様子。本児の言葉が遅れていることを強く心配している。さらに、「検査」を行う、ということ自体も不安をより煽ってしまう材料になっている。 ・「検査」の前日には、A子に「検査」の予行練習（名前を呼ばれたら手を挙げて返事をするなど）をさせたとのこと。 ・（A子の言葉が遅れていることで）「気が重い」と何度も口にする。イライラしてA子と、上の子（A子の兄）にもきつくあたってしまうと、心中を吐露する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の表出面」という一側面だけに焦点を当てず、常に全体的な発達を見ていく視点でA子を見て、母親と共有することを意識してA子の発達の姿を確認していった。 ・母親はThの発する言葉に過敏であると共に、A子の順調な部分にはあまり目が向いていない様子であったので、発達検査においてもしっかりと表現できたA子の非言語的問題処理の年齢相応の力などには特に焦点を当てて母親に伝え意識化をはかった。そして、検査のやり取りからも見えた、A子の非言語的コミュニケーションの力を生かして母子で遊びを深めていくことの具体的な方法について助言をした。 ・描画では、円錯画の中に交差も見られ、今後さらに形あるものが表現される時期も近いと思われること、子どもは一つの領域だけではなく、いろいろな領域が相互に関連し合って成長するので、描画を見ていくことは、言葉の成長における見直しにもつながると推測することも伝えた。具体的には、描画なども含めた、身振りや手ぶりなどの行動、表情など言葉以外のコミュニケーションの積み重ねと、スキンシップやふれあい遊びなどの、身体刺激につながるかわりによる発達促進について助言した。
第2期	2歳9ヵ月	 <p>描画3 力強くぐるぐる丸を描出。</p>  <p>描画4 円錯画の中に、形あるものが見られる。</p>  <p>描画5 閉じる丸の出現</p>	<p>「アオ」「パパ」「ママ」「ニイニイ」「ミイミイ」「イヤ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレイルームの乳児用の玩具の青色の球を持って「アオ」と言う。 ・ブロックを出して、その中のお父さん人形を取り、「パパ」、お母さん人形を取り、「ママ」、その他の人形をそれぞれ「ニイニイ（兄）」、「ミイミイ（自分）」と言う。 ・ブロックは自分ではめ込まず、Thにジェスチャーで“ここにはめて”、“これとこれをくっつけて”ということ等を示す。 ・母親が、「もう帰るよ、おもちゃ片づけて」と言う時、A子は「イヤ！」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上の子が幼稚園に行くと、A子と二人だけで家にいると、A子に無理に言葉を言わせようとしてしまう。しかし、自分の思うようにA子が言葉を発しないので、すぐにイライラしてしまう、と話す。母親がイライラしてきたのがわかると、A子はそこから離れ、別の部屋に行ってしまうのだと、母親は言う。 ・自分は、掃除などをきちんとしないと気が済まない性格なのだ、だから、子どもには「いけません」と言うことが多くなっているのかもしれない、と、母親は自分の育児を振り返る。 ・母親は、「早く帰って○しな」となど、常に次のことを気にして、時間に追われ、せかせかとしている。 ・A子には家で爪噛みが見られるという。母親は、自分がきつくあたることが原因ではないかと振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親がブレイルームの玩具の片づけを気にする様子が見られるので、子どもにとっての遊びの流れや表現としての意義などと、心理面接の中でとらえ方などを、「片づけ」の問題と関連付けてわかりやすく話す。 ・母親から、片づけの問題と関連させて自分の性格傾向を振り返る発言があったので、母親の生真面目さについては、大切な長所でもあることを受けとめながら、そのことで、子育てにおいてはしんぞんが育つことにもなること、母親自身のためにも、子どものためにも、焦らず、ゆったりとした時間や空間を子どもと共有する上での工夫や考え方について助言をした。 ・母親の話を受けとめたり、A子の表出を受けとめたりするThの言動が、母親の心的状態へも刺激を与えたり、1つのモデルにもなり得ること意識した対応を心がけた。

						<ul style="list-style-type: none"> ・爪噛みに関しては、理解力がさらに発達し、表現したいことも、より具体的になってきているにもかかわらず、言語表現で詳しく伝えることができないことで、A子のストレスが大きくなっていくことも要因として考えられことを伝えた。 ・描画では、円錐画の中に、閉じる丸を描出し、形が窪み出されてきている印象を受けたため、母親と共有し、「A子ちゃんの中から表出されているものを、具体的なメッセージとしては明確にはならなくても、大らかに受容してあげましょう」と伝えた。
第3期	2歳10ヵ月	 <p>描画6 閉じた丸の中に目、鼻、口と思われる描出。 DAM式 MA3:3 IQ115</p>  <p>描画7 閉じた丸の外に線がかすかに出現。 DAM式 MA3:1 IQ109</p>  <p>描画8 円形から線が明確に描出。 DAM式 MA3:1 IQ109</p>	<p>「ガーガー」 「モ」 「イヤ」 「パパ」 「ママ」 「ニイニイ」 「ミイミイ」 「アンパン」 「ワンワン」 「ニャーン」 「アオ」 「ナイナイ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アヒルの絵柄の服を着てきたA子に、「かわいいね」と言うと、「ガーガー」と言って、服の柄を示す。 ・包丁でサクサク切って遊ぶことができるままごと道具で、野菜・肉類を全て切っていく。おいもを持って「モ」と言う。「ちょうだい」と言うと、切った半分を手渡してくれる。Thが「いただきます」と言って食べようとすると、A子ももう半分を一緒に口に入れようとする。「まな板使う?」とThが聞くと「イヤ」と言う。 ・ブロックの家族人形を出し、「パパ」、「ママ」、「ニイニイ(兄)」、「ミイミイ(自分)」と言いながらブロックの椅子に座らせたり、ベッドに寝かせたりする。 ・粘土を見つけ、興味を示すので、「触っていいよ」と言うと、取り出して、粘土用へらで切ったりする。粘土でThが大きなお皿を作ると、小さく刻んだ粘土を入れていく。Thがアンパンマンの顔を作ると、「アンパン」と言う。Thがバナナを作ると食べる真似をしてにっこりする。 ・動物絵本を広げ、犬の絵を見て「ワンワン」、猫の絵を見て「ニャンニャン」と言う。 ・お絵描きをする際、青のペンを取り、「アオ」と言い、ペンを箱にしまう時「ナイナイ」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A子が母親の背中に抱きつこうとするが、母親は「早く片づけなさい」と言う(車の中にお弁当を入れているので、それが傷むことが気になるとのこと)。 ・母親は余裕が無く、A子のペースに合わせる事が難しい。常に時間に追われているという雰囲気である。 ・以前はA子に無理矢理に言葉を言わせようと厳しくあたっていたが、最近は無理に言わせることをしないように気をつけている。しかし、A子の兄が母親の真似をして、A子に言葉を言わせようと無理に迫るようになっていくこと。 ・「本当にしゃべるようになるのでしょうか、先生?」と、ため息混じりに吐露する。 ・Thが、A子の成長している側面に焦点を当てて母親に伝えても、「遅れ」という否定的な考えからなかなか離れられない様子である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の背中に抱きつこうとする行為は、A子の精一杯の母親への愛情表現であるように思われること、このような率直な表現ができたことが、A子ちゃんにとって大きな一歩だと思えることを母親に伝えた。 ・非言語的コミュニケーション中心ではあっても、こちらの意図は伝わり、A子のジェスチャーもきめ細かいため、やり取りは進展し、ごっこ遊びを楽しむこともできるくらい、成長が見られることを母親に伝え、共有する。 ・(第2期までは)ブロックも自分で操作せずにThに委ねていたが、(第3期では)自分で操作し、表現意欲も増し、自分でできるという自信もついてきていることを伝える。 ・やり取りの中で楽しみながら、適応的に単語が発せられることが増えていることを共有する。そして、このような密度の濃いやり取りを続けていくことは、A子の言葉の育ちが着実に進んでいくことにつながるであろうことを伝える。 ・描画では、円形から複数の線が表出されたことは、自分でブロックなどを操作するようになったことも重なり、自ら外に向けて発信し、人や物と積極的にかわりつなごうとする意欲の表れであること共有した。母親の背中に抱きつくという行為とも、自ら発信するという意味で通じるのではないかとすることも伝えた。
第4期	2歳11ヵ月	 <p>描画9 描出に注釈がつくようになる。 DAM式 MA3:3 IQ111</p>	<p>「アンパン」 「ポーン」 「ハイッ」 「エイッ」 「ウン」 「オメメ」 「ママ」 「メーメ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋に入る前の廊下に貼ってあったアンパンマンの絵から、入室するなり、「アンパン」と言う。ドアの外にあった、というように、指をさして示す。 ・折り紙で作った紙の球を見つけたことから、ボール投げが始まる。Thの真似をして「ポーン」と 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親は、毎日、何かと用事を作るようにしていること。「今日は何をしたのだろう?」と思わなくていいように、「今日はこれをした」という実感を持てるようにしているのだと語る。家庭内でA子と触れ合うことには、あまり向き合いたくないという母親の思いの表れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親にとって、子どもとゆったりかかわったり、遊んだりすることは、価値を感じにくい様子に見えることに対して、「育児はとも骨が折れるにもかかわらず、結果がすぐに目に見える形で表れるわけではないので、虚しさを感じる時もありますね」と言葉で整理して

	 <p>描画10 目、鼻、口への明確な意識の表れ。 DAM 式 MA3:3 IQ111</p>  <p>描画11 目の中に「瞳」の出現の兆し。 DAM 式 MA3:3 IQ111</p>  <p>描画12 円形からたぐさんの線の描出。 DAM 式 MA3:6 IQ120</p>  <p>描画13 線の勢いが表れている。 DAM 式 MA3:8 IQ126</p>		<p>言う。紙の球は破れることから、ソフトテニスボールに切り替える。「ポーン」、「ハイッ」、「エイッ」などの言葉が表出される。「投げの上手だね」とThが言うとお絵描きでは、人の顔と分かる描出し、「オメメ」、「ママ」、「メーメ」と言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイルームの中の箱庭用砂箱台の下などに隠れて、「あ、A子ちゃんがない」、「あ、見つけた」などと声をかけると、声を出して笑い、隠れては見つけてもらう、かくれんぼ遊びを何度も繰り返す。見つけたら、喜んで、その都度、Thに抱きついてきた。 	<p>でもあるように思われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A子のことは、「家の中では、ほったらかしにしている、言葉のことを気にしないようにしている」と語る。 ・母親と二人で家にいる時、A子は一人でブロックをしたり、アンパンマンのビデオを見たりしているとのこと。 ・A子に無理に言葉を言わせる、というようなことをしないうに気をつけてはいるが、間もなく3歳になることを思うとやはり不安であるということが語られる。 ・A子が、兄と遊んでいて、気に入らないと兄を叩く、しかし兄が嫌がったり泣いたりするとすぐに“よしよし”という感じで頭を撫でると、家庭内でのA子の様子が語られる。 ・兄と遊んでいた後、母親が子ども部屋に行くとき、A子が自分の髪を抜いていた。母親が気づいた範囲で、(抜毛は)今回見たのが2度目であるという(A子と兄が子ども部屋で遊んでいる間、母親は別の部屋でA子の服を縫っていたとのこと)。 ・母親はA子の抜毛をストレスとしてとらえ、自分の対応について振り返っていた。 	<p>共感を示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味である洋裁に打ち込んで、何か目に見える作品を作り出すことは、母親にとって、今を乗り切る大切な事項になっていると思われるので、Thが母親の洋裁をそのように受けとめていることを伝えた。その上で、第3期にはA子が母親の背中に抱きつこうとしたように、お母さんに直接触れ合いたいという欲求を持っているであろうことを話題にした。時には背中ではなく正面からA子に対して腕を広げてあげると、A子はとても喜ぶであろうと、素直に親を求めてくれる、かけがえのない時期でもあるかもしれない、と言う旨を話した。 ・第3期にA子が母親手作りのアヒルの絵柄の服を「ガーガー」と言い、嬉しそうに見せてくれたことを踏まえ、洋裁とA子を切り離さず、より結びつけ、「○○を縫っているんだよ」「△△の柄だよ」などと、母親の趣味の世界に関する話題でA子とかわりを持つことは、母親にとってもスムーズであり、A子も喜ぶと共に、言語表出を促進する上でも、言葉かけは重要な意味を持つことから、良い相乗効果をもたらすことになるのではないかとすることも伝えた。 ・第4期の前半の描出では、第3期に表れていた円形からの線の表出が見られず、目・鼻・口(のように見える)部位がはっきりとした形で描かれた。A子が良く見ているアンパンマンのビデオの影響も推測できるが、A子は、「オメメ」、「ママ」などと言いながら、描いており、その瞬間、「ママ」がイメージされていたと思われる。同時に、「オメメ」などの語りにも表れているように、目・鼻・口などの部位が第3期に比べると一層意識され、それらの部位に意識が向くことで、外へ向かう線が省略されたのではないかと推測され、母親とも共有した。 ・第4期後半の描出は、円形から、たぐさんの線が表出された。A子の内側から外に向けてのエネルギーの発出が、より豊かに力強くなされていることが感じとれることを母親と共有した。A子は自己意識が明確になってきており、表現へのエネルギーもますます強まっていることが感じられること、「髪を抜く」行為も、母親は、A子のストレスとしてとらえているが、A子の伸びていこうとする強さだともとらえられるのではないかとこの視点をThは示した。
--	--	--	--	--	---

<p>第5期</p>	<p>3歳0ヵ月</p>	 <p>描画14 口に見える横線の下に丸の描出。 DAM式 MA3:6 IQ117</p>  <p>描画15 複雑な描線の出現。 DAM式 MA3:6 IQ117</p>  <p>描画16 顔・頭に見える円から出る線が、髪の毛としてまとまってきている。 DAM式 MA3:6 IQ117</p>  <p>描画17 耳にも腕にも見える描出。 DAM式 MA3:6 IQ117</p>	<p>「(オ) ハヨウ」 「ママ」 「パパ」 「コウ？」 「キュッ」 「モー」 「ニヤコ」(ネコ) 「ニコ」(ネコ) 「イッパイ」 「ジャンケン」 「センセイ」 「キイ」 「アオ」 「アカ」 「ニヤー」 「ワン」 「プー」 「ヒヒン」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「○○ちゃん、おはよう」とThが言うと、「(オ) ハヨウ」と言う。 ・「ママ、ママ」と、母親に正面から抱きつくようにし、母子分離に抵抗を示す。母親に甘える様子を素直に示す。しばらく母親も一緒に居てもらい、A子が落ち着いてから分離を促した。 ・折り紙を出して、折り紙の本も出してめくる。家では父親が動物を折ってくれるということをし、「パパ」といいながら、ジュエチャーを交えて示す。動物のゾウを折りたいたと示す。Thが折って手本を示すと、「コウ？」と言い真似して折っていく。「こうしてキュッと折るんよ」と言う。「キュッ」と言って同じように折る。 ・ゾウの後は、本の中のウサギを指し、ウサギを折りたいたことを示す。Thの折るのをじっと見て、真似をして、できないところはThにやって欲しいというように差し出す。 ・絵本のじゃがいもを「モー」、猫を「ニヤコ」「ニコ」などと言う。 ・窓から、駐車場に多くの車が止まっているのを見て、「イッパイ」という。 ・ボールを見つけて、投げ合いっこをする際、Thが「ジャンケンしよう」というと、「ジャンケン」と言う。勝敗などの理解は十分ではないが、おもちゃが、何度もジャンケンを求めてくる。 ・動物の人形を出してきたので、Thが「ニヤー」「ワン」「プー」「ヒヒン」など、A子が手を取った動物人形の泣き真似をすると、A子も同じように「ニヤー」「ワン」「プー」「ヒヒン」と真似する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A子が自分と離れにくい様子を見せるのは初めてのこと。これまで、どこに行っても、スムーズに母親と分離していたと振り返る。 ・A子の言葉について「いろいろ言えるようになったんですよ」と嬉しそうに語る。 ・ここ(病院を兼ね備えた総合的な療育施設)へ通うことには当初は抵抗があったが、通いはじめることとA子は楽しんでいて、友人などに相談するより安心だから、良かった、と語る。 ・母親は育児の話から、自分自身が厳しく育てられ、「口うるさく言われることが嫌だった」と振り返って、気がついたら自分も「口うるさい親」になったし、「神経質」になった、と語った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A子が母親に正面から抱きつき、分離に抵抗を示したことは、母子関係の構築がしっかりと進んでいることを意味していると受けとめ、母親と共有した。そして、「A子ちゃんは、お母さんが受けとめてくださるといふ安心感を持つことができたからこそ、お母さんを求める思いを素直に表現できるようになったのですね」と伝えた。 ・「ここ(病院を兼ね備えた総合的な療育施設)に通うことには抵抗があった」という内容の母親の言葉には、母親の、子どもに対する期待や理想像、「こうあってほしい」「こうでなければ」という思いが感じられた。そのため、大人側の目に見えない枠が、かえって子どもの無限の広がりを難しくするかもしれないと、育児上の示唆にさりげなく触れる話をした。 ・第2期には、「きちんとしないと気が済まない性格」と、母親は自分を振り返っていたが、今回は母親自身がどう育てられたか、にも話が及んだ。Thは、母親自身が自分の親との関係をじゅうぶん表出できるよう、「お母さん自身の今の時の親子関係は、今のお母さんとA子ちゃんとの関係につながっているかもしれないですね」と、関心を示して傾聴した。 ・描画では、円形から表出された線が、視覚的に整えられてきて、見ただけには「髪の毛」と理解できる頭部からの発出にまとまってきた。A子の安定感が感じられることを母親と共有した。
<p>第6期</p>	<p>3歳1ヵ月</p>	 <p>描画18 円形の中の描出も、外に向けての描出も、明確な意味を持って整えられてきた。 DAM式 MA3:10 IQ124</p>	<p>「イヤ」 「ママ、パン、コウ」 「アンパン、パンチ、テ」 「ウミ」 「ウキ」(ウキワ) 「チョー」 「Aコ、ウキ、スイスイ」 「ニイチャン、スイスイ、イッタ」 「Aコネ、ケーキ、スキ」 「センセイハ？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に遅れたため、母親がA子の手を無理にひっぱって連れて行った。そのため、A子はひどく泣きながら入室した。遊びに誘導しても「イヤ」と言って抵抗を示した。特に母親が「○○やったらい？」などとすすめるとより激しく「イヤ」と言っていた。 ・母親が部屋を出て行くと機嫌は落ち着き、粘土遊びをする。「ママ、パン、コウ」と、ママがパンをこうやってこねている、と言うかのように、言葉をつなげてお話しする。 ・粘土でアンパンマンを作ると、「アンパン、パンチ、テ」と、アンパンマンが、パンチを手です、と言う。 ・この後でプールに行くことを説明しようとし、「ウミ」(プールのこと)、そして、ウキワのことを「ウキ」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A子の兄がそろばんを習っていて、週に2~3回連れて行っている。宿題も多く、最近他の子についていくことが難しくなっていて、家でついつい厳しく怒りながら宿題をさせてしまうと話す。「何でできないの」と思い、上の子をいじめてしまふ、言葉の出ないA子に対しても同じような気持ちであった、と振り返る。 ・面接場面でのA子の様子から、母親は、知らないうちにA子は成長していること、子どもの心の広がりや想像できないことなどに具体的に目を向けることができた様子であった。 ・母親は、ついつい頭ごなしに自分の思いを子どもにぶつけてしまう自分の傾向を振り返り、感情のコントロールに目を向けたという思いが語られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Thは母親が、子どもに対する苛立ちからくる「何でできないの」といった言葉を浴びせた後、後悔の気持ちを抱き苦しんでいる部分に共感を示した。そして、「A子ちゃん、A子ちゃんのお兄ちゃんには、お母さんのその葛藤、お母さんの苦しみは伝わっていると思います」と、A子ちゃんたちに伝わっているのは、激しい否定的な言葉だけではない、それ以上に母親の気持ちが伝わることを示した。 ・粘土遊びの際、母親が家でパンをこねている様子を再現するかのような姿が見られたことを、「お母さんのすることを知りておぼえておられますね」と言語化して伝えた。母親は、「そこまで興味を持って(自分のすること)を見てるとは思わなかった」と驚

		 <p>描画19 同じような形を繰り返し描く。 DAM 式 MA3:10 IQ124</p>  <p>描画20 横線の下に丸の描出が続く。 DAM 式 MA3:10 IQ124</p>  <p>描画21 安定した描出に見えるが、固い印象も受ける。 DAM 式 MA3:8 IQ119</p>		<ul style="list-style-type: none"> 粘土で作ったものを持って、ペロペロ舐める真似をするので、「キャンディーかな？」と聞くと「チョコ（そう）」と大きく笑顔でうなづく。 絵本をめくり、泳ぎの絵、プールの絵を見て、「A コ、ウキ、スイスイ」と、泳ぐ真似をする。A 子がウキワをもって、泳ぎに行ったよ、と言っているようであった。また、「ニイチャン、スイスイ、イッタ」と、兄が泳ぎに行ったこともお話ししてくれた。 おまごとのケーキを見て、「A コネ、ケーキ、スキ」「センセイハ？」と言う。 		<p>いた様子だった。Th は、子どもにとっての母親の存在は、母親が思うよりずっと大きいものだと思うということを、丁寧に伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 描画では、円形から発出された線が、「髪の毛」だけでなく、「腕」「脚」と分かるように描かれるようになった。「自己意識」、「身体意識」がより形成されてきていることの表れとして、母親と共有した。 顔の部位の描出の中で、「口」に見える線の下に丸が描かれている。言語表面での成長が感じられる一方で、まだ少し言葉が発する上でのわだかまり、少し抑え込む力が A 子の中には存在しているのかもしれないと、母親に伝えた。
<p>第7期</p>	<p>3歳2ヵ月</p>	 <p>描画22 横線の下丸の描出が消えている。 DAM 式 MA4:0 IQ126</p>  <p>描画23 丸が横線の上に描出された。 DAM 式 MA4:3 IQ134</p>	<p>「A コ、パン、ン」 「A コ、ギユウニユウ、キライ」 「A コ、チャー、スキ」 「パパ、ママ、ニイニ、ギユウニユウ、スキ」 「ウミ、A コ、ニイニ、ママ」 「ネコ」 「ママ、スキ」 「センセイ、スキ」 「A コ、チイサイ」 「アカ、スキ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 母親が朝ごはんの話題をまず出していたことから、Th が「A 子ちゃん、朝、何を食べてきた？」と尋ねると、「A 子、パン、ン」と、パンを食べてきたよ、と答えてくれた。「牛乳も飲んだ？」と尋ねると、「A コ、ギユウニユウ、キライ」。「A コ、チャー、スキ」。「パパ、ママ、ニイニ、ギユウニユウ、スキ」と、自分（A 子）は牛乳は嫌いで、お茶が好き、父親と母親と兄は牛乳が好きなのだ、と話してくれた。 絵本のプールの絵を見て、「ウミ、A コ、ニイニ、ママ」と、A 子は兄と母親と一緒にプールに行ったのだと説明してくれた。 箱庭用の玩具である、動物人形と、花や草木などの植物と、積み木などを総動員して、床の上に A 子の好きな世界を築いていく。中心は猫の人形で、「ネコ」と言いながら積み木のベンチに座らせて、周りを取り囲むように他の動物や植物などが置かれた。特に「ネコ」以外の言葉を発することはなく、黙々と取り組む。動物が、豊かな自然の中でくつろいでいるような世界を構成する。 描画では、「ママ、スキ」。「センセイ、スキ」。「A 	<ul style="list-style-type: none"> A 子を祖父母宅に連れて行くと、「A、A、A、A 子ね。」というように、吃音が出ることもあるという。祖父母に話したいことがたくさんあって、気持ちが先走るのでろうと母親は話す。吃音が出て、祖父母に上手く伝えられない時は、一緒にいる兄が A 子の言いたいことを通訳するように祖父母にわかりやすく話してくれるとのこと。母親は、「上の子ども知らない間にずいぶん成長しているのですね」と、A 子の兄の成長にあらためて言及した。 「どんなことでも否定せずに聞いてくれるから、A 子はおじいちゃん、おばあちゃんに何でも話して、発散もしているのでしょうね」と祖父母の存在の意義にも目を向け、少し自分が肩の力を抜いても大丈夫かなという気付きが得られた様子であった。祖父母は、A 子の表現をゆっくり待つと共に、兄が代わりに伝えてくれる様子も優しく受け入れて対応してくれると、母親はしみじみとした雰囲気でも話した。 	<ul style="list-style-type: none"> 吃音に関しては、心理面接の場面では出ておらず、家でも出ないとのこと。母親の説明の通り、祖父母に「話したい」という気持ちが先走るのでろうと思われた。そして、Th は、吃音のことは、母親が、A 子に対する兄の配慮や、祖父母の、A 子の表現を「ゆっくりと待つ」姿勢にしっかりと着目するきっかけにもなっているようだという言葉を話し、母親のポジティブな反応の側面に着目して共有した。 また、母親というものは、子育てにおいて大きく責任も感じてしまうものだけれど、子どもは知らず知らずのうちに周囲の人たちとの関係性を上手く紡ぎながら自ら成長していく力を備えているので、肩の力を抜いて見守っているというスタンスでよいのではないのでしょうか、と伝えた。 描画では、「口」に見える横線の下丸の出現はなくなった。代わりに横線の上に丸が描かれ、これを A 子は「お鼻」と表現している。「眉毛」らしき描出も見られ、一層、「人物」が生き生きと表現されるようになった。描く際には「ママ、スキ」と言いながらまずは一番に母親を描いたことを伝え、「A 子ちゃん

				<p>コ、チイサイ」と言いながら、3枚の画を描いた。ペンは「アカ、スキ」と言いながら、赤色を選んで描いた。</p>	<p>は、お母さんが大好きな気持ちを、描画でも言葉でもストレートに素直に表現できるようになりましたね」と言葉添えた。さらに「センセイ、スキ」とも言いながらThを描いてくれて、続いて「Aコ、チイサイ」と言いながら、A子自身を表現するなど、A子なりにそれぞれの人の違いをイメージしながら描いたことを母親に話した。そして、描いたものを言葉でも伝えることができ、情緒的交流もしやすくなってきていると思われるので、今後も非言語的表現と言語的表現のどちらも大切にしながら感情のキャッチボールを大切に積み重ねてほしいということを母親に伝えた。</p>
--	--	--	--	---	--

第1期：母親との関係性の構築期～A子の自己表出の模索期～、第2期：母親との関係性の構築期～A子の表現欲求の高まり期～、第3期：母親との関係性の展開期～A子からはたらきかけの萌芽期～、第4期：母親との関係性の展開期～A子からはたらきかけの充実期～、第5期：母親との関係性の展開期～A子の母親への分離不安出現期～、第6期：母親との関係性の成立期～A子の象徴機能の高まり期～、第7期：母親との関係性の成立期～A子の社会的人間関係の成立期～



図1 円形から線の出る描画（3歳女児の描画）

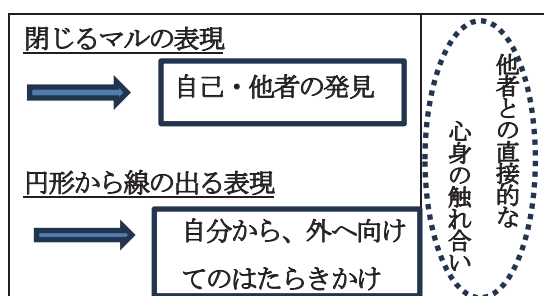


図2 円の描出と、円から線の出る描出について

が「はたらきかけの萌芽期」、[「はたらきかけの充実期」に入り、これを「関係性の展開期」としたが、母親はこの時期、「自己の性格や感情コントロールの振り返りと葛藤、模索」の時期であった。そして、A子が、「象徴機能の高まり期」を迎え、「社会的人間関係の成立期」に入った時期を「関係性の成立期」としたが、この時期、母親は、「A子の成長など、肯定的な側面への気づきと共に、母子を取り巻く周囲にも目が行き、徐々に肩の力が抜けてきた」時期であった。

表7には、治療過程の分析③として、Thのかかわりを示した。「関係性の構築期」には、A子とは情動水準のコミュニケーションを積み重ね、母親に対しては、感情の表出を受容し、A子の備えている力を言語化して伝える

ことに努めた。「関係性の展開期」には、A子に対しては、情動水準のコミュニケーションから象徴水準のコミュニケーションの促しと構築をはかり、母親へは受容的対応を継続し、A子の変化の側面の言語化を丁寧に行った。「関係性の成立期」には、A子に対しては、象徴水準のコミュニケーションの構築と感情の共有をはかり、母親へは受容的対応をさらに継続すると共に、母親とA子との関係性の橋渡しを重視したかかわりを行った。

表5、表6、表7に整理した治療過程の分析①、②、③から、Thは、A子の中で高まってきている力、成長の可能性に目を向けて、それらが上手く表出されていくように支えることが主な役割であった。この治療過程の中で表出されていったA子のエネルギーが、葛藤を抱える母親の混乱をゆっくりと癒していき、母子の関係性の変容につながったのではないだろうか。A子の描いた表現は、まずThに、治療の方向性と可能性を指し示すアセスメントとして生かされ、Thが母親にA子の備えている肯定的な側面を言語化して伝える際、そして、A子の変化の側面を言語化して伝える際にも有効的に活用できるものとなった。

3. 子どもの心理アセスメントにおける視点

Iの問題と目的でも述べたように、松本（2010）は、心理アセスメントの対象が子どもである場合に重要となる二つの視点を提示している。第一に提示しているのは「子どもは成長・発達する存在である」という視点である。その理由として、アセスメントの対象となる子どもたちは、困難を抱える一方で、大きな可能性や能力を秘めた存在であることを示す。それ故、「アセスメントにおいて援助すべき課題を明らかにすると同時に、対象の

表5 【治療過程の分析①—A子の描画を含めた状態像の変化の過程—】

第1期	意図的ななぐり描き	母親との関係性の構築期～A子の自己表出の模索期～
第2期	意味付けのなぐり描き	母親との関係性の構築期～A子の表現欲求の高まり期～
第3期	円形	母親との関係性の展開期～A子からはたらきかけの萌芽期～
第4期	顔	母親との関係性の展開期～A子からはたらきかけの充実期～
第5期	線の描出	母親との関係性の展開期～A子の母親との分離不安出現期～
第6期	頭足類	母親との関係性の成立期～A子の象徴機能の高まり期～
第7期		母親との関係性の成立期～A子の社会的人間関係の成立期～

表6 【治療過程の分析②—A子と母親の様子と変化の過程（関係性への着目）—】

	A子の様子と変化	母親の様子と変化
第1期	母親との関係性の構築期 ～A子の自己表出の模索期～	A子の発達の遅れに対する不安・否定的な感情、受け入れられない気持ち
第2期	母親との関係性の構築期 ～A子の表現欲求の高まり期～	
第3期	母親との関係性の展開期 ～A子からはたらきかけの萌芽期～	自己の性格や感情コントロールの振り返りと葛藤、模索
第4期	母親との関係性の展開期 ～A子からはたらきかけの充実期～	
第5期	母親との関係性の展開期 ～A子の母親への分離不安出現期～	
第6期	母親との関係性の成立期 ～A子の象徴機能の高まり期～	A子の成長など、肯定的な側面への気づきと共に、母子を取り巻く周囲にも目が行き、徐々に肩の力が抜けてきた
第7期	母親との関係性の成立期 ～A子の社会的人間関係の成立期～	

表7 【治療過程の分析③—Thのかかわり—】

A子の様子と変化	Thのかかわり	母親の様子と変化
自己表出の模索期 表現欲求の高まり期	関係性の構築期 A子との情動水準のコミュニケーションの積み重ね	母親の感情の表出の受容とA子の備えている力の言語化
はたらきかけの萌芽期 はたらきかけの充実期 母親との分離不安出現期	関係性の展開期 A子との情動水準のコミュニケーションから象徴水準のコミュニケーションへの促しと構築	母親への受容とA子の変化の側面の言語化
象徴機能の高まり期 社会的人間関係の成立期	関係性の成立期 A子の象徴水準のコミュニケーションの構築と感情の共有	母親への受容と、母親とA子との関係性の橋渡し

持つ可能性や能力のアセスメントが極めて大切なことである」とする。第二に提示しているのは「子どもは取り巻く環境の中で生きている」という視点である。この場合の環境とは、物理的環境のみでなく、人的環境も含んでいるとした上で、この視点を提示する理由として、子どもは環境を取捨選択することが難しいこと、すなわち、自らの力では回避することのできない環境からの影響を大きく受けながら日々成長、発達するのが子どもである、

ということを示す。

本郷（2008）は、心理アセスメントの中でも、発達途上にある子どもを対象とし、子どもの発達と支援を目的に行われるアセスメントを「発達アセスメント」と呼んでいる。そして、発達アセスメント（developmental assessment）の定義を、「人を理解し、人の行動や発達を予測し、その発達を支援する方法を決定するために行われる測定・評価」としている。この発達アセスメントに

は、「理解するためのアセスメント」と「支援するためのアセスメント」の2側面があり、これらは重なり合う側面であるが、アセスメントの適切性、有効性を評価する際には、分けてとらえておく方が良く、と説明している。また、本郷（2008）は、ここでいう発達アセスメントは、必ずしも標準化された発達検査や知能検査に限定されるわけではないこと、また、量的に測定することだけがアセスメントでもないことを述べ、発達アセスメントには、心理検査の他、行動観察、保護者からの聞き取りなど多様な方法があり、その対象には、子どもの能力や特性だけでなく、子どもを取り巻く環境なども含まれる、と説明している。そして、このような多様なアセスメントを通して、子どもをどのように理解するのか、発達の特徴に基づきどのような支援を進めるのかということが重要であり、発達アセスメントは手段であって、目的ではないと強調する。本郷（2008）も、松本（2010）と同様に、子どもが、取り巻く環境の中で生きている、という点を重視している。

さらに、本郷（2008）は、発達アセスメントの目的を、次の四つに整理している。第一に、「発達支援のニーズを把握するためのアセスメント」であり、「理解するためのアセスメント」にあたるものである。具体的には、「子どもの発達について保護者から何らかの相談があった場合、あるいは巡回相談の場で子どもに出会った場合、その子どもに何らかの発達障害や知的障害があるのか否か、あるいは特定の障害とは断定できないものの、何らかの支援ニーズがあるのか否かについて判断することが求められる。このようなアセスメントの手段には、個別の発達検査、知能検査だけでなく、保健所の乳幼児健診などにおけるスクリーニング課題なども含まれる。また、行動観察や問診票などを通した保護者からの聞き取りも重要な情報となる」と説明する。第二に、「支援目標・方法を決定するためのアセスメント」であり、「支援するためのアセスメント」にあたるものである。一般に支援目標は、発達アセスメントの結果から導かれたものになっている必要がある。また、どのような支援目標を設定するのかによって、支援方法が決まってくる、とする。第三に、「発達を確認するためのアセスメント」である。これには、「理解するためのアセスメント」と「支援するためのアセスメント」の2側面が含まれる、とする。そして、子どもの発達をとらえるにあたっては、各領域の発達水準はどうか、発達のスピードは領域によって異なるのかなどの点について定期的にアセスメント・ツールを組み合わせることで評価することにより、測定の妥当性が増すと考えられる、と説明する。第四に、「支援の妥当性を確認するためのアセスメント」である、とする。これは、第三のアセスメントと重なるが、発達の理解というよりも支援の妥当性を評価するために補足的なアセスメントをする場合があることから、分けておいた方がよいと述べて

いる。すなわち、発達アセスメントによって支援目標と支援方法が決定され、それに沿って具体的な支援が行われる。そして、支援によって、子どものどのような側面の発達が促されたのか、あるいはその伸びは予測通りのものであったのか、別の問題行動を引き起こしていないかなどが評価される。それによって、支援目標、支援方法の妥当性が検討され、支援目標や支援方法の変更が必要か否かについて判断がなされることになる、とする。

このように、発達アセスメントは、子どもの発達を理解し、支援するためのものであること、発達支援は、必ずしも知能を伸ばすことだけが目的ではないし、ましてや発達検査の成績を上げることが目的ではないとし、重要な点は、支援によって、現在の子どもの生活をどのように豊かにするのか、子どもの将来の発達をどのように準備するのかという点であることを本郷（2008）は述べている。

鬼丸（2000）は、初期の描出の過程は、人物画につながる過程であるとしたが、すでに述べてきたように、人物画の描出過程には、社会的人間関係の関与がある。故に、この描出過程を見ていくことは、「取り巻く環境との相互作用の中で」生きている子どもをアセスメントすることを可能にし、描出過程に表れる変化の過程に注目することは、松本（2010）の示した、「子どもは成長・発達する存在である」という点を重視したアセスメントにもつながるのではないだろうか。

A子に関して、「発達支援のニーズを把握」、「支援目標、方法を決定」、「発達を確認」、「支援の妥当性を確認」、という4つを目的としてアセスメントを実施したが、方法として重視したのが初期描画であった。筆者はすでに、なぐり描きに見られる表現は、一つのアセスメントとして有効的なものになり得る（末次、2021）こと、また、初期描画から人物画への変化の過程の描出を、それが意味することを読み取り、共通理解可能なメッセージとして生かすことができるならば、子どもとの関係に難しさを抱える母親の「子ども理解と受容」において重要な役割を果たす（末次、2020）ことを示している。言葉の遅れを主訴とするA子と母親との面接過程においても、母親に、目に見えるA子の成長・変化を描画表現から伝えることができたことは、母親のA子へのまなざしに影響を与えることにつながった。既に述べたように、本郷（2008）は、支援によって、現在の子どもの生活をどのように豊かにするのか、子どもの将来の発達をどのように準備するのか、ということが発達アセスメントにおいて重要な点であるとした。今回のアセスメントと、母子関係に着目した治療の過程を通して、母子の相互作用を促進してそれぞれの情緒的安定をはかることで生活の豊かさを支え、A子の今後の発達の基盤となるものを構築した。

本研究においては、言葉の遅れを主訴とする、ある幼

児と母親との面接過程の検討、分析を通して、我が子の発達の遅れの不安を抱える保護者への支援、特に母子関係を支える一環としての初期描出の有効的な活用方法の一端を提示した。

V ま と め

言葉の遅れを主訴とする幼児と母親との心理面接の過程において、「子どもは取り巻く環境の中で生きている」という点を重視したアセスメントの必要性から、なぐり描きから人物画に至る描出の変化の過程を、母子の関係性への介入の指標として活用した事例を取り上げた。A子の描いた表現は、まずThに、治療の方向性と可能性を指し示すアセスメントとして生かされ、Thが母親にA子の備えている肯定的な側面を言語化して伝える際、そして、A子の変化の側面を言語化して伝える際にも有効的に活用できるものとなった。治療過程の中では、A子には、身振りや手振りも交えた直接的なコミュニケーションを通して、他者との友好的な、安定した交流の楽しさが実感できるように、つまり社会的人間関係の構築を目指してかわりを進めた。母親には、「言葉」という一つの部分にのみ着目しがちであった視点を、非言語的表現に向けることができるよう、A子の描画をできるだけ活かして、そこに内在するA子の内面に寄り添う時間を共有した。そのようにしながら、子どもの発達を全体的に見ていく視点、そして目に見えない変化の過程にこそ着目していく視点を伝え、その過程を伴走する援助的かわりを行った。結果として、A子の社会的人間関係を築く力が高まり、母親がA子の力に背中を押されるような関係性の中で、母子の相互作用が進み、良い循環と安定が見られるようになった。

VI 今後の課題

今回の事例を含め、これまで、子どもの初期描画をア

セスメントとして活用して、母子の関係性に着目した心理的治療を実施し、研究を進めてきた。しかし、関係の問題を見ていく上では、母親側にもより深く向き合い、意識化されていない部分、抑圧されている部分、或いは言語化されにくい部分の表出、可能な対峙を促す方法も必要であると考えられる。

今後は、母親側にも、心理アセスメントとしての描画、例えば母子画を取り入れ、描出を促すなどを検討していきたい。そのことにより、より一層、対象の母子の関係性に生じている問題を理解し、適切な支援の構築に結びつけることができるようになるのではないだろうか。

VII 文 献

- 本郷一夫 (2008). 子どもの理解と支援のための発達アセスメント 有斐閣
- Kellogg, R. (1969). *Analyzing Children's Art*. 深田尚彦 (訳) (1986). 児童画の発達過程 黎明書房
- 小林重雄・伊藤健次 (2017). DAM グッドイナフ人物画知能検査 新版 ハンドブック 三京房
- 小林隆児 (2010). 関係からみた発達障碍 金剛出版
- Luquet, G.H. (1927). *Le dessin enfantin*. 須賀哲夫 (監訳). (1979) 子どもの絵—児童画研究の源流— 金子書房
- 松本真理子・金子一史編 (2010). 子どもの臨床心理アセスメント 金剛出版
- 鬼丸吉弘 (1981). 児童画のロゴス 勁草書房
- 末次絵里子 (2020). 自閉症児と母親の関係性の発展～描画表現を通して～ 臨床描画研究, 35, 120-140 北大路書房
- 末次絵里子 (2021). 幼児の心理的発達となぐり描きの変化の過程 広島文化学園子ども・子育て支援研究センター年報, 11, 5-18
- Lowenfeld V. (1947). *Creative and Mental Growth*, 3 edition. 竹内清・武井勝雄・堀ノ内敏 (訳) (1963). 美術による人間形成 黎明書房
- 山形恭子 (2000). 初期描画発達における表象活動の研究 風間書房

Summary

In the process of psychological interview for an infant with a chief complaint of delayed language development and her mother, assessment was needed with a focus placed on the effects of the surrounding environment on children. In the case reported here, changes in drawings from scribbles to portraits were used as a basis for intervention in the relationship between the infant and her mother. The drawings made by Child A were used in assessment by a psychologist to determine the direction and possibility of treatment for the child. The drawings were also effective in allowing the psychologist to provide an oral explanation to the child's mother about the positive aspects and changes of Child A.

In the treatment process, we promoted communication with Child A to establish a social human relationship through direct gestures, so that the child could really feel joy in friendly and stable communications with others. For her mother, we used drawings made by the child to share time to understand the inner aspects of the child, so that her mother could focus on both "words" and non-verbal expressions. We supported her mother by suggesting standpoints of overall development and invisible changes in the child. As a result, the capability of Child A to establish a social human relationship was developed, and this empowered her mother and promoted interactions between the child and her mother, enabling a favorable synergistic effect and a stable relationship.